

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300430		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム「はなの里」		
所在地	三重県名張市西田原2094番地1		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和5年3月31日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2471300430-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JizyosvoCd=2471300430-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 17 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和5年度には創立19年を迎えます。昨年度は浴室の改良を行い、入浴ロボットによる安全な入浴が出来るようになりました。今年度の計画としてはシステムキッチンへの入れ替えを予定しており、使い勝手の良い台所になります。皆さんと一緒に調理が出来る楽しみが増して来ることと期待が大きく膨れており、会話の中にも笑顔が見られております。今後も家庭的な雰囲気や大切にし、入居者が自分らしさを維持して生活できる場として、ご家族のご協力を得ながら「笑顔」「尊重」「安心感」の理念を大切にしていきます。「ここに入居してよかった!」そして「ここで働けて良かった!」と言って頂けるグループホームを目指します。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近隣に民家がないことから、隣接している母体の法人が運営する複数の施設の事業所との交流が日常的に行われていたが、コロナ禍で制限している。今年に入り、内部で陽性者が発生したが職員一体で乗り切り、比較的早期に回復した。こうしたことは管理者と職員が信頼し合い、日頃から連絡ノートをよく活用し「報・連・相」が活かされてきた証と思われる。職員皆で作った理念に基づき、常に笑顔が自然と出るように、また、喜怒哀楽の感情を大切に、何事も利用者・職員全員で話し合えるような雰囲気作りの支援に努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで考えた「笑顔・尊重・安心感」の理念を今後も継続して実践していく。	職員皆の想いで作った理念「笑顔・尊重・安心感」を玄関やフロアに掲げ、その都度、ケア会議や各ユニット会議などで再確認し全職員で共有している。利用者の尊厳・尊重を念頭に置き、笑顔と優しい声掛けで利用者本位の支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、母体との交流も地域の行事への参加もほぼできない状況である。保育園児との交流も、市民センターでの交流も出ていません。	事業所は民家と少し離れた場所にあり、コロナ禍の中、地域(近隣)との交流は中止していたが、月2回の訪問ボランティア(音楽療法)を再開した。玄関前には園芸ボランティアによる花々が植えられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修や、講習会への参加はできるだけ参加させて頂いているが、コロナ禍で数少ない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も一堂に集まることが出来ない状況で、書面での報告にとどまっている。ご家族には面会時や受診時カンファ時に発言意見を引き出せるよう工夫し、取り組んでいる。	この1年コロナ禍で運営推進会議は中止してきたが、参加者(行政・地域包括支援センター・まちの保健室・民生委員・家族代表など)へは開催中止連絡と共に事業所の利用状況や活動報告を配布している。今後は参加者からの意見や助言を頂く工夫を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は問題解決や運営につき、健全に行くべく相談や報告を密に行っている。運営推進委員にも市の担当者が加わっており、都度報告している。	管理者は、運営推進会議の中止連絡や介護保険の手続きなどの提出に良く出かけている。困りごとがあれば、その都度、相談や助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設での身体拘束廃止・虐待・事故防止委員会に参加しており、3ヶ月に1回開催時各セッションのヒヤリハットや事故報告をもとに身体拘束や虐待にあたらぬかの検討をしている。グループホームでも委員会があり報告・検討している。	運営法人内の各事業所の代表者による「身体拘束等適正化委員会」を3か月毎に開催している。管理者は毎月のケア会議で拘束についての文章を具体化して説明し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体との合同会議の結果をケア会議で報告・検討している。虐待は身体的なものにとどまらず、精神面、言葉による虐待についても常に職員間で話し合い、意識するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見については現在利用されている方もあり、必要であれば、入居時やカンファレンスの時に説明している。本人家族の意向もあり強要は出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に添って例を挙げながら説明し理解して頂ける様努めているが、その時には入居する事でいづい様の様子もあり、十分理解されているとは言いかねる面もあり、面会時や連絡時に都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口については入居時に説明している。重要事項説明書だけでなく印刷物を別途渡して、利用して頂ける工夫をしている。	利用者とは日々の会話で、家族とは面会時・病院通院時や毎月の便り「ごきげんさん」に利用者の近況報告を載せることで会話が増え、意見や要望を聞く工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのケア会議の際自由な発言の機会を持っており、日常的に「報・連・相」に努め、意見交換のできる体制と、注意し合える関係づくりに取り組んでいる。	年1回、上司との面談がある他、毎月のケア会議や日々の申し送りで良く意見交換をしている。又、自由に書き込めるノートがあり、入浴ロボットの導入も職員の提案から実行された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりの為に、職場のワーク・ライフ・バランスを応援しながら、理事長自ら、「イクボス宣言」を行い4項目を重点に上げこもはら福祉会全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に生涯研修の段階的受講と施設内外の研修への参加、自己研鑽の為の資格取得等への勉強の場の提供を行っている。コロナ禍必要な場合にはWEB研修への参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場として各種の研修や講演に参加している。コロナ禍の今はWEBでの研修参加が主になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定後出来るだけ多くの情報収集に努め、生活歴や暮らしぶりなどを聞き取りながら、精神的にも安心して生活を送って頂ける環境づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請時の事前入居に至る困り事の事情収集や、本人の施設見学時の希望に注目し、ここでの生活の支援につき「医療の場」「介護の場」ではなく「生活の場」であることの説明をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症であることの確認と、グループホームでの生活に適應できるかを見極めている。時には、他のサービスの利用等も考慮しながら本人にとって最もふさわしい場所の提供を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であり、居室や共同生活の場では職員とともに掃除や整頓の作業、日常生活での無理のない範囲で役割を持ち、生きがいを感じて頂ける様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診はご家族に依頼しており、医療機関への情報提供書を作成し、医療機関に持参して受診することで、家族、医療機関、グループホーム間の連携の強化に努めている。受診時の家族との関りで家族の絆を維持できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も自由に出出来ない状況下、出来るだけドライブや散歩等で馴染みの関係づくりや目や耳からの情報で懐かしんで頂ける様工夫している。手紙や携帯での支援はできるだけ可能な範囲で支援している。	家族や知人との面会が何より望まれるが、コロナ禍で制限している。携帯電話で会話をしている利用者もいるが、この状況下では美容師や訪問歯科の来訪を殆どの利用者が心待ちにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然で自発的な共同生活の支援を心がけている。時にはトラブルもあるが、片方だけでなくお互いの言い分や気持ちの把握に努め孤立する事の無い様に寄り添いのケアで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要なお家族には近況をおたずねしたり、困り事が無いかを伺って、出来る支援を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや希望の把握に努めている。入浴時のゆっくりした時の会話では本人の気持ちをゆっくり聞き出すことが出来る為、その気持ちを大切に検討している。	入居時に希望や趣味などを聞いているが、その後、3か月かけて本人の意向の把握に努めている。管理者は常に利用者に寄り添い本音を聞き取り、それを全職員で共有し、一人ひとりに合った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が遠方の方や、遠方に住まわれていた兄弟を名張りに呼び寄せられた方などがあり、家族と言えども生活歴が不明な点が多い様子である。日常の何気ない会話をもとに情報整理し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルは個々によって違うことを念頭に置き、無理強いせず、自己決定を促しながら、出来ることは自分で出来るよう、またプライドを傷つけないさりげない支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で3人くらいの入居者につき、ケアの検討を行っている。また日々の職員との間での「報・連・相」で現状の把握に努め介護計画作成時に活かしている。	家族との介護計画の話し合いは利用者の病院受診時や電話などで聞き、毎月のケア会議で利用者3人ずつ検討・協議して作成している。介護支援専門員が介護の現場に携わっているため、その都度、状態に変化があれば随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はシフト制の為申し送りや連絡ノートの活用で、気づきや工夫につとめている。ケア会議の際には自由に意見を出して、検討し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の現状は厳しく、ご家族との交流の機会も持つことは困難なうえ、外出の機会も大きく縮小されている。天気の良い日にはふらりと散歩やドライブを楽しみ気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸福祉ボランティアや音楽療法の再開で少し外部とのかかわりが持っている。しかし最近のコロナの流行の状況は名張市においては毎日百人くらいの発生状況の為、なかなか交流の機会を持ってなくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人、ご家族との間で確認し、受診する医療機関を決めている。定期受診はご家族の対応をお願いしており、その際には近況報告・情報を提供し、医療との連携に努めている。必要時には医師と電話で対応している。	利用者全員が個々のかかりつけ医を主治医としている。受診には家族対応を基本としているが、遠方家族には事業所に対応する時もある。母体の看護師による週1回の定期訪問の他、夜間は本部の24時間オンコール体制があり、常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の看護師による週一回の定期訪問により必要に応じて、相談・助言・処置を行っている。早期発見に努め本人の健康状態の維持に努め、母体医務室とのオンコール体制を取り迅速な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携をスムーズに行えるよう状況に即した情報提供を行っている。退院時には今はカンファレンスの開催も困難ですが、電話等での情報交換で退院後の生活の安全・安心な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応につき本人、家族の意向を伺っている。しかし、その時になって再度、医師、家族、施設の間で検討をし、本人にとって一番良い方法を見つけ、実施していくことを説明している。グループホームで出来る事と出来ない事(医療的処置等)をはっきり説明している。	事業所としては看取りはしない方針である。入居時に看取りや重度化に向けての指針を家族に説明している。事業所での支援対応が困難になった時の準備として施設入所の情報提供や相談に乗っている。常に利用者にとって一番良い方法を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・連絡網を事務所に常設し、緊急時に備えている。毎月母体医務室より勉強会の資料の提供があり、ケア会議で配布し勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設、消防署の協力を得て、年2回昼や夜間想定避難訓練をしている。また日常的に生活の中にも地震や火災時のことを話題に上げ、とっさの行動につなげるよう努めている。外倉庫に食料の備蓄もしている。	以前は母体施設・消防署の協力を得て年2回、訓練をしていたが、コロナ禍になってからは事業所独自で防災訓練(特に地震)をしている。又、事業所独自のハザードマップを令和6年までに作成する予定である。食料品や生活必需品の備蓄は常にしてしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、その人らしい過ごし方を職員間で話し合い、入浴の時間を有効に、本人とのコミュニケーションに努め、本人の思いを聞き出している。常にさりげない声掛けで寄り添いのケアに努めている。	管理者・職員は、日常の何気ない一言で利用者を傷つける事のないように職員間で話し合い、言葉使いを大切にしている。本人を優先させケアするという方針に取り組み、理念の意味も含めてプライバシー保護の研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方、自己主張が強い人色んな方が共同生活されており、日常の会話の中特に入浴時が有効である。そこで得た思いをくみ取り、表現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為基本的な生活の流れは必要だが、本人の生活歴や体調、気分に応じて、本人のペースを大切にしながら、出来る範囲で個別対応を行っている。外に出たいときには庭いじりや散歩で外気浴での気分転換ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容が2か月に一回実施されており、自分の好みを伝えながらおしゃれを楽しんでいる。着替えの時も職員と一緒に今日の服を選んで楽しまれている。男性入居者には髭剃りの支援や女性入居者には時々マニキュアなどを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の出来ることを活かしながら役割をもって頂き、生き甲斐と食の楽しみを感じて頂ける様努めている。季節ごとにお弁当や手作りの食事会を開き気分転換を図っている。冬期のお鍋は好評です。	メニューに沿って業者からチルド食材を購入し、ごはんや汁物は職員が作っている。記念日・誕生日などのイベント食は、利用者の希望も聞きながら職員が作っている。冬季の鍋料理は好評で、事業所での食生活を豊かなものとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化や摂食量のチェックを行い、看護師の指導の下に栄養状態の把握に努めている。極端に摂食量や体重の減少が見られた時にはご家族と相談し医師による補助食品の処方や口当たりの良い本人の好物で栄養補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個別に自室にて支援している。希望者には訪問歯科との契約をして頂き、治療と口腔清潔に努めている。また医師よりの書面での指導で歯科衛生士と共に口腔状態の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握に努め、行動からのサインを見て、さりげない声掛けで、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	布パンツが5名、他はリハビリパンツとパットの対応で全員がトイレにて排泄が出来る。排泄チェック表や水分摂取量を把握しながら、本人本位に病態やレベルに応じて本人の負担の少ないケアを実施するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用し、排便チェックを行っている。必要に応じて看護師や主治医の指導の下、水分摂取や散歩、運動、食事、薬による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めず、一人週2~3回の入浴を行っている。当日の体調や気分の状況に応じてくつろいだ入浴が出来る様ゆったりとした環境づくり。季節感のある入浴剤等でリラックスを図っている。今年導入の入浴ロボットは安心して入浴出来ており好評。	日曜日を除き、週2~3回入浴を基本としているが、利用者の体調に応じて回数を決めている。又浴槽をまたいでの入浴困難な方の対応として、入浴ロボットを導入し、ゆったり寛ぎながら入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを無理強いせず整えるよう心がけている。夜間眠れない時には温かい飲み物を提供し、傾聴することで気分を落ち着かせて入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表や連絡ノートを活用し、薬の変更があった時の内容、注意事項等を周知し、共有できるよう努めている。またバイタル測定等で、健康状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事の好きな方には収穫の喜びを持って頂いている。徐々に屋外での作業には参加人数が少なくなっており、室内作業でおしぼり巻きやお盆拭き、自分の洗濯物たたみ、自室のモップ掛け等で役割をもった支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に参加して頂ける季節の行事などを企画実施し社会性の継続を図っていたが、コロナ禍でその機会が持たなくなっている。施設周りの公園や、玄関前での散歩や体操等で気分転換を図っている。天気によってはぶらりとドライブに出かけたりもする。	コロナ禍で外出は控えており、近くの公園へミニドライブに行く程度である。日常的には玄関先の庭で外気浴・体操・ボール蹴り・お茶会などをして、気分転換を図っている。	コロナ禍で、外出困難になってはいるが閉じこもるのではなく、工夫次第で外出が出来るようにする。外出可能に向けての準備として、職員の提案(喫茶店の貸し切り利用)や利用者の希望も取り入れながら外出支援のプログラムに期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、外出しての買い物等の支援が実現できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがき等が届いた際にはお礼の電話を職員の支援の下に行う程度となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い明るく清潔な空間づくりを目指している。照明、採光、テレビ等の音量にはその時の状況に合わせて配慮している。施設内には壁面に製作品や絵画を多く配置する等、癒しの空間づくりにも取り組んでいる。	リビング兼食堂は換気もよく広くて明るい。特に木製の床・廊下は綺麗で気持ちが良い空間となっている。キッチンからは調理時の良い香りが漂い食欲を誘っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外の場所で、気の合った利用者同士が話せるよう椅子やソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族による部屋作りを依頼しており、本人の使い慣れたものを持参して頂いている。また、本人の要望で家具の配置の変更を職員と一緒に安全な動線を考えて工夫している。	事業所として、エアコン・ベット・洗面台・整理棚が設置されている。他は、利用者が使い慣れた家具やお気に入りの写真などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、本人の自由な生活を送って頂けるような住環境である。本人の状況や希望にできるだけ配慮して自立の支援を行っている。		